

R5年度 「子ども文化」 シラバス	単位数 学科・学年・学級	6単位 生活科学科 第3学年 4組
-------------------	-----------------	----------------------

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童文化の基礎的な知識と技術の習熟を深め、これらの学習への一層の興味と関心を育てる。</li> <li>・子どもの表現活動に必要な児童文化財の製作等を通し、児童文化の意義と子どもの心身の発達に及ぼす遊びの重要性を理解し、児童文化の充実を図る能力と実践的な態度を育てる。</li> <li>・将来の進路選択に幅広く適応し、保育関連業務に従事できる能力と態度を育てる。</li> <li>・全国高等学校家庭科保育技術検定1級の合格を目指す。(造形表現技術・言語表現技術)</li> </ul>
使用教科書・副教科書等	子ども文化 (文部科学省 教育図書)

2 学習計画及び評価方法等

月	学習内容	配当時間	累計	学習のねらい・目標	資料・方法 題材・その他	評価法
4	子ども文化を学ぶにあたって－初エディション	2	2	・子ども文化を学ぶにあたって、学習の意義や内容、学習方法、評価の方法を理解する。	ワークシート	A
	第1章 子ども文化とはなんだろう			・子どものための文化活動、児童文化財、児童文化施設などの重要性を理解する。また、児童文化とは、子どもに豊かで健康的な文化環境を与えることを理解する。		C
5	1. 子ども文化とは	6	8	・児童文化財と乳幼児の生活とのかかわりや児童文化財が乳幼児に果たす役割を理解する。		D
	2. 子ども文化を歴史からみる	6	14			
6	第2章 子どもと遊び			・子どもの遊びの意義と重要性及び遊びの種類と発達のかかわりについて理解する。 ・日本の伝承遊びを理解し、実際に体験する。 ・遊びと遊具とのかかわり、遊具の選び方や与え方などを理解する。	ワークシート 保育人形 電子ピアノ	A
	1. 遊びの意義と発達	6	20			C
	2. 遊びの現状	6	26			D
	3. 遊びと遊具・玩具	10	36			B
7	4. 遊びと伝承	6	42	・保育検定取得に向け、検定の内容を理解させ、実習に取り組む。		D
	※ 保育検定対策 造形表現技術・言語表現技術1級	26	68			
9	第3章 子どもと表現活動			・子どもの造形・描画表現の発達を理解した上で、子どもとともに造る手作りの遊具の大切さを学び、実際に作成する。 ・造形の基本となる粘土遊び、水、土や砂での遊びの大切さを理解し、子どもの心の感動が原動力となって、様々な表現方法を通して個々の創造性が育つことを理解する。 ・描画表現の発達の順序を理解し、年齢ごとの造形に触れる。	ワークシート 電子ピアノ 画材各種	A
	1. 子どもの表現活動の面白さ	6	74			C
	2. 造る・描く	8	82			D
	3. 言語表現活動	6	88			
	4. 歌う・踊る・演奏する	8	96			
10	5. 表現活動の実際	6	102	・児童文化財の製作、またそれを使用しての実習を行う。 (絵画や折り紙などを用いた壁画構成、お話し、絵本、紙芝居、人形劇、パネルシアター、歌、ミュージカル、演劇)	ワークシート 絵本 紙芝居 視聴覚教材	A
	第4章 子どもと文学					C
	1. 語り	8	110			D
	2. 紙芝居	8	118			B
	3. 絵本	8	126			
	4. 児童文学	8	134	・保育検定取得に向け、検定の内容を理解させ実習する。音楽・リズム表現技術の取得に向けても取り組む。	検定対策資料	D
	5. アニメーション	6	140			
12	※ 保育検定対策 造形表現技術・言語表現技術1級	26	166			
1	第5章 現代の子どもの生活と文化			・テレビ、ビデオ、コンピュータなどの情報手段を活用した幼児の活動意義を理解させ、長所と短所について考え適切に活用できるようにする。	ワークシート 玩具	A
	1. テレビ、キャラクター、ゲーム	6	172			C
	2. 子どもと年中行事	6	178	D		
2	第6章 子どもを支える場			・子どもの健全な遊びや表現活動を支える代表的な施設を取り上げ、その意義と活用について考える。また実際にその施設を利用し、子ども達との交流をはかる。 ・自ら製作した児童文化財を用いて子どもとの交流を体験する。	実習用日誌 レポート	A
	1. 行政による公的な支え方	6	184			C
	2. 民間企業による支え方	6	190			D
	3. 子どものための各種施設	20	210	第7章 子ども文化演習		B
	1. 子どもと関わる前に					
	2. 遊びの観察と子ども理解					

評価の方法・・・A 出席状況 B 定期考査 C レポート・提出物 D 授業・実習に対する意欲